

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 81 号

2012年6月



羽山・愛宕山（斜平山）自然林観察会 青柳 静子

斜平山は、昨年に続き2度目となるネイチャーフロント米沢との合同観察会です。朝のうちは少し肌寒い気がしましたが、天気予報どおり昼頃には暑いくらいのお天気でした。ナ・デ・ラ・ヤ・マ、1度聞いたら忘れない名前とインパクトのある山容です。国道13号線から1本入ると、斜平山の東斜面が見えて来ました。屏風を立てたような形と雪崩の跡が何本もはっきりとわかります。さあ、今日はどんな出遭い、発見が待っているのでしょうか。気持ちが高まります。

早速、登り口でキバナノイカリソウ、ナガハシスミレ、ニョイスミレ、シュンランを見つけました。準備体操を終えて歩き出し、次に見たのはタムシバの花芽です。そしてまたちょうどいい目の高さにタムシバが咲いていました。これは撮らなければ！ガクをレンズで覗くと3D のように見えて美しい！ウリハダカエデの花と新緑、ハウチワカエデの花とガクも美しい。陽射しを浴びて真っ直ぐ上に伸びるブナ、ミズナラ、コナラのグラデーション、リョウブは新緑に陽が射し行燈のように見えます。オク



タムシバ



マドンナ

チョウジザクラは満開を迎えてました。この季節は、どんなに雪深い地方でも必ず春は来ますよと知らせるようにすべての生命の勢いを感じます。足元を見ると、イワナシのピンクの可憐な花、ブナのマドンナは双葉の先にまだ種を付けています。ブナの大木も始めはこの小さな命から始まるのかと思うと、ただただすごいなあと思うばかりです。

じっくり観察していると、もう目に入るものすべて気になりだし中々前へ進みません。いつからでしょう、観察会に参加するようになって、今まで見えてなかったものが見えるのです。多分、初めて参加された方はびっくりするでしょうね。このスピードで頂上まで辿りつくのだろうか。私も初めての時は、皆さんの観察力の凄さにあっとうされました。それが、今ではすっかりこのスタイルにハマってしまい楽しみでなりません。その場で解らなくても後で図鑑で調べたり思い返すのも楽しいひと時です。

今回のコースではなんとといっても新緑の美しさでしょう。羽山神社近くのブナの大木は見事でした。日本海側の植生のユキツバキは今回のコースにはわずかしかなかった。何故なのでしょう？その他に日本海側の植生が見られたのは、オオ

バクロモジ、マルバマンサク、シラハタマツなどでした。植物以外では、羽山へ上る途中、小さなジミチョウが1頭飛んできて私の胸元に止まりました。後で K さんからルリジミ♂ではないかと教えていただきました。羽山から愛宕神社へ向かう途中で、ミヤマセセリが1頭いました。地味な蝶ですが、年1回早春に出現する貴重な蝶です。また、オトシブミや幼虫も2匹見つけました。この幼虫、後で芋虫ハンドブックの中のものにのっていたオオシマカラスヨトウではないかといきつきました。そして、見られないと思っていたヒメギフチョウが1頭ヒラヒラと目の前に飛んできてくれました。蝶好きな私にとっては大満足でした。



オオシマカラスヨトウ

愛宕神社で食べた昼食、M さんのごちそう、おいしかったです。ここから一望出来る米沢市街、上杉神社の辺りもわかりました。右手には、西吾妻山が見え、なんて贅沢な時間なのでしょう。また明日から頑張ろうと思いました。

下りは、急な坂を慎重に一歩ずつ。私は下りが苦手ですが、山菜が目にとまり、少し頂いてきました。無事に下り終えた最後に見たオオタチツボスマレが皆さん、お疲れ様と言葉をかけてくれたように思えました。

今日、5月13日は母の日でもあり、帰ったら健康な身体に産んでくれた母に感謝の気持ちを伝えたいと思います。そして、今日の合同観察会で得たすべての事、皆さんに感謝します。ありがとうございました。

4月8日鹿狼山観察会に参加して

伊賀和子（南相馬市在住）



鹿狼山観察会

「高山の原生林を守る会」の観察会に参加するのは本当に久しぶりでした。鹿狼山は地元といってもいいくらいの距離にありますが、なかなか登るチャンスのない山でもあります。震災で一年遅れになってしまいましたが、昨年予定されていた観察会の時からとても楽しみにしておりました。鹿狼山に最初に登ったのは小学6年生の時で、その時にくらべるとずいぶん整備されて都会の山になったみたいな印象です。当時は山麓は萱場になっていましたから、萱屋根がなくなって萱場の必要がなくなり、遷移が進み林になったり、杉の植林がなされたりしたのですね。それでも頂上直下にコナラなどの大木が残っているのはうれしいことでした。

さて、今回は鹿狼山で見たネコノメソウ属について話したいと思います。観察会が始まってまもなく進行方向左側の沢筋に砂防堰があり、そこで「ヨゴレネコノメ」を観察しました。撮影なさった方もたくさんいらっしゃいましたね。この「ヨゴレネコノメ」を「ニッコウネコノメソウ」に訂正願います。これまで相双地区では鹿狼山で見たあのネコノメソウ属は「ヨゴレネコノメ」と記載されてきました。しかし、たまたまですが、鹿狼山登山の直前に私がインターネットに投稿した写真をご覧になった方から「ニッコウネコノメソウでは？」という指摘がありました。そこでいろいろな図鑑にあたってみましたら、ニッコウネコノメソウの方が正しいという結論にいたりしました。



ニッコウネコノメソウ

◎ ニッコウネコノメソウの特徴

雄蕊は普通8本で花時は萼裂片より高くなる。2. 葯が暗赤色 3. 萼裂片は黄緑色あるいは黄色。4. 開花時の萼裂片は斜め上に開く。もしくは平開する。5. 分布は本州（東北地方南部から中部地方）、四国でおもに太平洋側の半日陰、沢筋など湿った場所。図鑑の分布では東北地方南部となっておりますが、観察会に参加された瀬川さんによりますと岩手県一関市でも確認されたそうです。

◎ ヨゴレネコノメの特徴

雄蕊は4本～8本で花時は萼裂片より高くなるか同じ程度。2. 葯は暗赤色。3. 萼裂片は暗い赤褐色か緑色。4. 開花時の萼裂片はほぼ直立で開かない。5. 分布は本州（関東以西）から九州の太平洋側の山間の湿り気のある場所。



ニッコウネコノメソウの群落

「ニッコウネコノメソウでは？」と指摘くださった方によりますと、ヨゴレネコノメは東京の高尾山では足の踏み場がないくらいの群生だそうです。また現在、相馬市では新たな市史編纂に向けて様々な視点から調査をし、資料を収集、蓄積しているところですが、今回の植物調査ではニッコウネコノメソウとしてリストアップされています。

新地町、そして鹿狼山 (岩手・西和賀町) 瀬川陽子

こんにちは。岩手県の西和賀町で、毎月1回観察会を主催しているカタクリの会の瀬川陽子です。

私の住んでいる西和賀町は、奥羽山脈の真ん中、秋田県の横手市に隣接する特別豪雪地帯。平成 17 年に湯田町と沢内村が合併し西和賀町になりました。高山の会の皆さんとは、18 年前の『東北自然保護のつどい・男鹿大会』で知り合いました。あの時乳飲み子だった息子二人は、社会人となって働いています。その長い年月、高山の会のみなさんとお互いの観察会に参加して刺激を受けてきました。会報高山の小幡仁子さんの『鹿狼山から』のエッセイは、楽しみにしているコーナーの一つです。鹿狼山のカタクリはどんな風に咲いているのだろう。去年観察会に参加したいと思っていたのですが、大震災で行くことができませんでした。それで今年は早々とカレンダーに予定を書き、とても楽しみに出かけたのでした。

1 新地町にて

4月6日(土)まだ庭に1m以上の雪がある自宅を8時半に出て北上インターから高速に乗り、宮城県の富谷ジャンクションから常磐道を目指し、新地町の役場のある交差点に着いたのは11時15分でした。(高速料は2,450円ほど)仁子さん宅におじゃまして昼食にし、それから震災後の海を案内してもらいました。

仁子さんは「海は怖い。震災後に行くのは初めて・・・」と言われましたが、津波ですっかりなくなった新地駅にまず向かいました。「確かここに駅があった・・・この道路は駅前の道だけど・・・あ、どうなったっけ。建物がなくてよく思い出せない・・・」とつぶやきながら歩く様子に、仁子さんの悲しみに張り裂けそうな胸の中が見えるようでした。

防波堤の大きなコンクリートが粉々に砕けむきだしになっている様子は、津波の大きさを物語っていました。枯れた木があつて何だろう？とまじまじ見て赤松であることがわかりました。塩害で枯れたのでしょうか。また相馬漁港や市場などのがらんとし建物の中に入ったり、クジラの形をしていたという壊れたトイレも見ました。松川浦の松川浦大橋は素敵な吊り橋でしたが、この吊り橋に掴まって助かった命もあったとうかがいました。

松川浦の岩子漁港近くを走っていたら！大きな『丹下左膳之碑』・・・なんだこりゃ？碑の裏の文字を読めば、平成元年にこの地域の方々が建てた様子。丹下は奥州相馬中村藩の出身とあり、ここで産湯をつかったの？？仁子さんは何度もこの辺の民宿に泊まったけれども、この碑の存在は知らなかったそうです。記念撮影をパチリ。ネットで調べれば、丹下は架空の人物だよ。なんでここに碑が？福島の皆さん調べておくれ。松川浦でも津波に被災されていましたが、家は立派に修理されていました。海で暮らすと決めた方々の、潔さが感じられました。

そして仁子さんの実家にお邪魔させていただき、お庭にあるというマルバシャリンバイを見せていただいたのです。お父さんが庭石を組み立て小宇宙を作っておられ、その石垣に添うようにマルバシャリンバイが生えていました。庭づくり・植木はお父さんの25年来の趣味とか。ご病気で入院されたとき、仁子さんに植木の手入れを頼んだらすっかり伐られてしまったので「ずっと元気でいなくちゃダメだなあ」と笑いながら話しておられました。お祖父さんが二本松から新天地を求めて新地に住み、昭和初めから海岸沿いを田んぼにした話や、「仁子に勉強せ、と言ったことない」というエピソードなど、テープに録音して一冊の本にしたいような話がお聴きできたのは嬉しく思い出に残りました。その夜は仁子さん宅に泊めていただき、静かに夜は更けていきました。翌朝散歩したら、夫が「コジュケイが鳴いてる」と嬉しそうでした。西和賀にこの鳥はいませんから。

2 鹿狼山

8時半頃に到着したら、もう数人がおみえでした。福島市内からの参加者も揃い、佐藤守さんのオリエンテーションで観察会はスタートしました。肌寒い日でしたが、日当たりよい斜面にカタクリが咲いていました。私たちの花よりは色が淡く上品でした。今年一番に見た花として思い出のページに刻みしました。

途中「岩手と鹿狼山とどんなふうに自然が違いますか？」という質問を受けたのですが、一番は靴の違いです(笑)。私たちの歩く西和賀は長靴で歩くのがベスト。全体に湿っぽいのです。鹿狼山は乾いていて、長靴で来たことを悔やんだほどでした。その乾燥具合と150*程南であることが植生の違いを生んでいるのでしょう。見たことがなく歓声を上げたのはフサザクラ・イヌシデ・クマシデ・ネジキなどの木でした。

スイセンの葉に似たナツズイセン。最初「野生のスイセンがある」と見ていたのですが、どうもスイセンじゃないようだ・・・でも普段からスイセンの葉の匂いなど嗅いだこともなく、身近な自然をちゃんと観察することが大切なんだと感じました。

一緒に歩いていた伊賀さんが「この苔、ゲゲゲの鬼太郎の目玉おやじに似てるんですよ」というので、ルーペを



丹下左膳の碑

取り出して「どれどれ？」直系2ミリの位の翡翠色の丸い小さな玉に、レンズのような透明な目玉がついていました。それは「タマゴケ(玉苔)」という名前が付いているそうです。ほんと、星形をした葉から小さな球が飛び出していました。気をつければコースのあちこちにありました。

ゆっくり観察しながら山頂についたのは12時15分でした。ずっと気になっていたのは、皆さんの背負っているザックの大きさ。鹿狼山は軽登山レベルなのに、何故大きなザックを背負っているのか。あの中には何が入っているのか？ その答えは、手品のように出てくる昼食だったのです。朝早くから起きて作ったおかずの数々に驚き、感謝の気持ちでいっぱいです。御馳走様でした。

午後1時に登りとは別のコースを降りました。どこかで見たことのある葉が芽を出していました。なんだか思い出せません。聞いたらホタルブクロというので、「あ！そうか。家にも園芸種があったじゃないか」身近な自然を丁寧に観察することの大切さをここでも感じたのです。

3時位に下山し、まとめの挨拶。私はほとんどメモもせず「楽しい」と歩いただけでしたが、夫のメモに野鳥15種、つぼみも含んだ野草は20種記載されていました。ちょっとショック。

『会報高山』の皆さんの感想文を楽しみに読んでいたのですが、じつは皆さん感想文を書くのは苦手なのだとか。「感想文を書く」ことになったときは、メモをしっかり取って説明を聞き漏らさないようにする・・と伺い、そのような心がけが会報を充実させているのだと感心したのです。

観察会終了後は一路西和賀を目指し、夕方6時に自宅に到着したのです。



タマゴケ

今日の信夫山

鎌田 和子

あまりに陽気がいいので、信夫山を歩こうとバスで出かけました。岩手県では絶滅危惧種だというヒメニラが、信夫山の一隅にあるのです。今日の目当ての一つは、ヒメニラの花が咲いたかどうかを確認することです。数年前、スマレを見に行ったとき、偶然に見つけた小さな花。何という植物か分からず、図鑑で調べて、それはヒメニラというユリ科の植物と知ったのです。

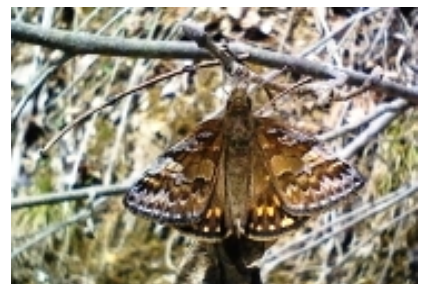
今日は岩谷下から護国寺へのコースをたどることにしました。二つ目の目的はスマレです。今度、スマレを勉強したいというMさんを案内するため下見です。冒険の森への岐路にさしかかったとき、ひらひらっと、蝶が飛んできました。ルリタテハでした。地面に止まりそうになって…、高く飛んで行ってしまった…。運がよければ蝶に出会うこともあるかと、ひそかに期待はしていましたが、こんなに早く現れるなんて！スキップしたい気分です。そうこうするうちに、毎年マキノスマレが咲く斜面にさしかかりました。立ち止まって、砂地に目をやると、マキノスマレが咲いています。独特の花の色、ぴんと垂直に立つ小さな葉。その葉を裏返して「紫背だな。」とつぶやく。マキノスマレの咲く斜面から少し進むと、緑の中にアオイスマレが咲いていました。この場所でアオイスマレの花を見るのは初めて



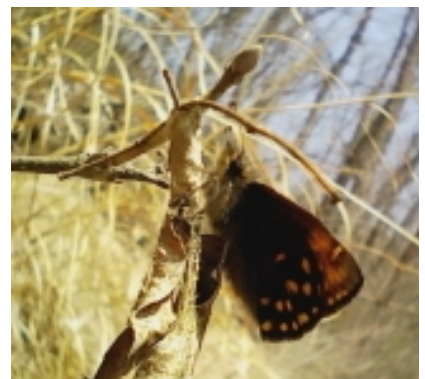
ヒメニラ

です。今年は、アオイスマレの花が遅れているのでしょうか。

遍照院の前をとおり抜けた辺りで、小さい黒っぽいものがヒラッと飛んでいきました。目で追うと、それは低い木の枝に止まりました。近寄っても逃げません(写真①)。後ろ羽のオレンジ色の斑点が調べるときに手がかりになりそう。前羽は木の皮のモザイクみたいな模様をしています。裏側(写真②)の羽の色と柄も表側とほぼ同じ。初めて見る蝶です。蛾かもしれません。あとで調べて、その蝶はミヤマセセリといい、年に1回3月下旬～4月上旬に姿を現すということを知りました。年に1回だけ発生し、しかも越冬態は終令幼虫。…ということは、今日見たあの蝶は、越冬から目覚めた幼虫が蛹になり、それから何週間か経て羽化した成虫ということになる！…すごい、年に1回しか出現しない蝶に出会えたなんて！と感激。と同時に、子孫を残すのに1年もかかる蝶がいることにびっく



① ミヤマセセリ
(開帳 40mm)



② ミヤマセセリ (裏面)

りました。

最後は、第1の目的のヒメニラの観察です。3月中旬に訪れたときは、なんにも生えてなかった場所に、薄萌葱色の葉がいっぱい伸びていました。じーっと目を凝らすと、2枚ひと組の葉と葉から伸びた花茎の先っぽに小さな花が付いていました。あっちにもこっちも丸い壺のような花！その一つをルーペで覗く。レンズの魔法なのでしょうか。うすぼんやりに見えた花の色が、日本情緒あふれる美しい色合いに変身しています。別世界を、ルーペでしか見れないヒメニラの美しさを、しばし眺め愉しみました。(2012.4.10)

鹿狼山から 21 ～鹿狼山に癒されて～ 小幡 仁子

4月8日(日)に「高山の原生林を守る会・第121回自然観察会」が鹿狼山で行われました。担当は地元新地町の住人である私でした。昨年は東日本大震災があり、新地町は大津波により沿岸部の集落が跡形もなくなり、大きな被害を受けました。それで、昨年4月に行われる予定だった鹿狼山自然観察会は中止となったのでした。あの頃は、沢山の方が亡くなり行方も知れず、津波というものの破壊力に呆然とする毎日でした。また、原発事故のこともあり、自然観察会をするという雰囲気ではありませんでした。

あれから1年以上が過ぎても、時間が止まったままのように津波後の風景が広がっています。しかし、そんな風景も不思議なことに、日々目にしていると見慣れた日常風景になってしまうものです。

さて、あんな震災があっても鹿狼山には春が巡って来て、カタクリを始めキクザキイチゲ、アズマイチゲなどのスプリングエフェメラルが咲きました。今回は岩手県西和賀町から瀬川夫妻の参加がありましたから、新たにヒメニラやウスバサイシンがあることが分かり、ムササビの糞や住み家、野鳥16種類などにも観察の目が広がりました。充実した観察会になり、私も役目を無事に終えた気がしました。

観察会後の4月22日に、私は同級生二人に誘われて、また鹿狼山に登りました。カタクリもほぼ終わり、ニリンソウが咲き始め、イヌブナの若葉が萌え始めていました。気持ちのいい新緑の中を3人でゆっくり歩きました。同級生のTちゃんは大津波で三男坊を亡くしました。久しぶりで会ったので、いろいろな話をしました。Tちゃんは先日イタコに会ってきたと言いました。息子の葬儀をした会館から、イタコツアーの案内がきて、本当に会えたりするのかどうか分からないけれど、案内を見たら、どうしても会ってみたくなくて、夫は行かないって言うから、一人で行ってきたというのです。

それで、息子に会えたのかと私は聞きました。イタコは上品なおばあさんだった。紙に会いたい人の名前と生年月日を書いて見せて下さいということだったから、書いて出したら、あなたの息子さんはいつも朗らかで、周りを明るくしてくれる人でしたねって言われて、それは本当にその通りだったから、泣けて泣けて何も話すことが出来なくなってしまった。行く前からあれも聞こう、これも聞こうと思ってメモも持って行ったけど、結局何も聞くことはできなかった。とTちゃんは淡々と話しました。そしてね、息子はあっちで友達と野球をして楽しくやっているって。そして、時々はお母さんの作ったご飯でなく、セブンイレブンのおにぎりも食べたいんだって。それからお母さんに車の運転に気を付けて下さいとも言っているって。イタコの人は私にそう言ったの。息子は部活の帰りによくコンビニに寄っていたからね。そして不思議なことに、この前、私が優先道路を走っているのに、急に脇道から車が出てきて、危うくぶつかりそうになったからイタコの人と言っていたのはこのことだったかと思ったの、と話してくれました。

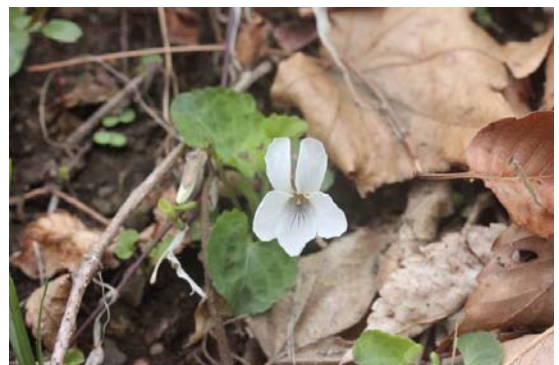
イタコとの関わりは、Tちゃんにとっては心理カウンセラーとの相談のような効果があったと思われました。また、こうやって同級生同士で鹿狼山を歩くのも、Tちゃんにとっては心の痛手を癒やす機会かと思いました。

マルバスマレが登山道沿いに咲いていました。「マルバスマレっていうのよ」と言うと、Tちゃんは「かわいいね、ウサギの耳みたい。色んなスマレがあるのね、知らなかった」といって見ていました。穏やかな笑顔でした。

このあとは、チゴユリがたくさん咲くからまた一緒に歩こうと約束して山を下りました。(2012.5.31)



鹿狼山の萌え始め



ウサギの耳のようなマルバスマレ

東北ブナ紀行(46)「大震災が教えてくれたものV」

～実情、東北の山の放射能～

奥田 博

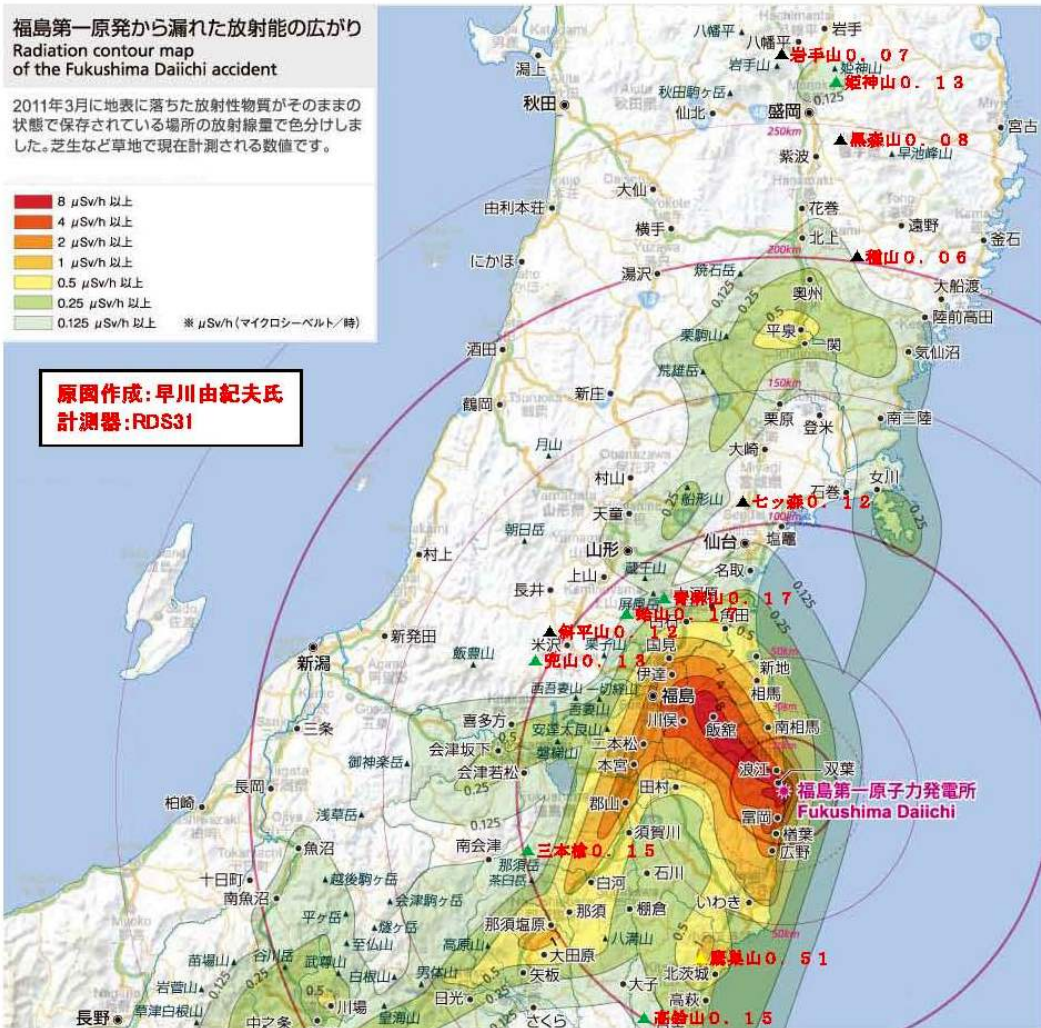
前回の号で『この一年間、「ブナ紀行」は実質お休みしたが、次回から再開したい』と述べたが、実はまだ言い足りないことがあって、放射能シリーズを続けます。次回こそ「ブナ紀行」を！と願うが？。

5月13日米沢の斜平山で開催された観察会は、好天に恵まれ新緑を堪能した。山頂では、関根さんから山菜のコシアブラを分けてもらい、久しぶりに山菜を堪能した。思えば、昨年からの山菜は、福島県や宮城県では、採れない状態が続いている。キノコを含めて、庶民のささやかな楽しみは、取り上げられたままだ。この状態は、一体いつまで続くのだろう。

現在、山に登れば必ず放射線量を計測しているが、少しまとまって来たので、放射能分布図に代表的な福島県外の山の線量をプロットしてみた。青森県の多くの山は0.05 μ Sv/hレベルであり、平常数値と思ってよく表記しない。数値は山頂での1m高さのデータである(山頂部の数値が高いとは限らない)。

早川由紀夫氏作成の放射能の広がり図を見ると、福島県外でのホットスポットは、岩手県・平泉を中心とした場所、姫神山を中心とした場所、船形山、牡鹿半島の4か所に見られる。今後、それらの山々を調査したいと思っているが、いずれの場所も福島市よりも遥かに低い水準(1/10)であることを考えると、この空間線量値は大きな問題はないと思われる。

現在は空間線量による外部被曝よりも、食物や水などから摂取される内部被曝の方に注意が必要だといわれる。4月から暫定基準値から厳しい基準値に置き換えられて、農家などは厳しい対応を迫られている。今のところ山菜などは、それ相当に高いと思って口にしたい方がいいだろう。我々、福島県民は既に多くの食物や飲物から放射能を摂取していると思われる。ガンの発生リスクばかりが話題になっているが、チェルノブイリでは、心臓が急に苦しくなる、起きていられない倦怠感、やる気を喪失する、などの症例が多くの人に発生しているが、原因不明で片付けられている。広島の肥田医師は、同じ事例を原爆投下後に多く見ているという。これらは全て内部被曝によって起こされた症例であり、今後注目してゆく必要がある。



ミネズオウ (*Loiseleuria procumbens* ツツジ科ミネズオウ属)



山頂効果等で乾燥した岩礫地に植生する常緑性小低木。匍匐性の茎を持ちシモフリゴケやガンコウラン、コケモモ、コメバツガザクラとともに岩間を埋めるように群落を形成している。1属1種のツツジ科のわい性樹木。「スオウ」はイチイの別名で葉の形状がイチイに類似することから峰に生育するイチイに見立てて命名されたとされる。種小名は「平伏または仰臥した」を意味する。

葉は対生で革質の細長い葉を密生する。コケモモ、コメバツガザクラに類似するが葉の大きさはコメバツガザクラ、コケモモより小さい。葉色は淡緑色で他の2種より淡い。コケモモの葉は互生、コメバツガザクラは3輪性なので葉の着き方で区別できる。葉縁は裏側に巻き込み、葉裏の主脈には毛がある。

花は頂性で茎の先端に散房花序を形成し、2~6個程度のベルフラワーを咲かせる。開花は周辺部からで中央部に未開花の蕾を残した姿は品のいいブーケを思わせる。花色は白が基本だが、時にピンク色を帯びる。開花すると先端から中ほどまで5裂する。雄しべは5個で葯の色は鮮やかな赤。直径3~5mmほどの花だが、群落一帯に咲きそろう様は可憐さと凛々しさを備え、「岩場の乙女」の名が相応しい。開花期はミネヤナギ、ミネザクラと同期で、5月中下旬~6月上旬であるが、雪解けの早晚で左右される。ツツジ科の多くの花は下向きに咲くのだが、これとは対照的にミネズオウは上向きに花を咲かせるので赤い葯がアクセントとなって星屑がきらめいている印象を持たせる。厳しい環境に生育することから訪花昆虫や風を受け止めやすくしているのかもしれない。

吾妻・安達太良では冬場の偏西風の直撃を受ける稜線上で部分的に偽高山帯の地形が見られるが、ミネズオウはそのようなところを好んで生育している。また、ブナ林上部の樹林帯中に残る岩稜帯にも分布することから、極度の乾燥地に対する適応性が高い樹木ではないかと思われる。またミネズオウの群落ではガンコウランも同時に見られるが、コメバツガザクラとは微妙に植生域が異なるようでコメバツガザクラとは仕分けているようだ。

吾妻・安達太良では冬場の偏西風の直撃を受ける稜線上で部分的に偽高山帯の地形が見られるが、ミネズオウはそのようなところを好んで生育している。また、ブナ林上部の樹林帯中に残る岩稜帯にも分布することから、極度の乾燥地に対する適応性が高い樹木ではないかと思われる。またミネズオウの群落ではガンコウランも同時に見られるが、コメバツガザクラとは微妙に植生域が異なるようでコメバツガザクラとは仕分けているようだ。

オオカメノキ (*Viburnum furcatum* スイカズラ科ガマズミ属)

ブナ林から亜高山針葉樹林にかけて植生する落葉低木樹。ブナ-チシマザサ群集の標徴種とされ、多雪地帯のブナ林を特徴づける基本的な構成樹。特にブナ帯の傾斜地に多く植生する。名の由来は葉の形を大きな亀に見立てた説が一般的だが他に諸説がある。別名の「ムシカリ」は「虫食われ」が訛ったものとされる。種小名は「二又または又状」を意味する。花序の軸が分岐した姿を表したものと思われる。



葉は対生。葉形は卵形で先端は尖る。葉縁は重鋸歯が発達し、葉身には深いシンメトリックな並行脈が走り、葉柄には星状毛が密生する。葉の基部は心形に窪み葉柄と連なる。

花は頂生で茎の先端に大型の散房花序を形成する。小花は合弁花で花弁は平開する。花冠は5裂し、雄しべは5個、花序軸は5本で5数性を示す。花序は周辺の装飾花と中央部に集合した多数の両性花で形成されている。装飾花は大型で中央部に小さな葯の痕跡が残るが繁殖能力はない。装飾花は訪花昆虫を誘引する役割を担っているとされる。両性花は小型であるが繁殖能力を備えている。花序に柄はなく、2枚の葉の分岐部から装飾花と両性花を着生した4本の軸とその中央部から両性花のみの軸と併せた5本の軸が直接、展開する。植生域の重なるガマズミ、カンボク、ヤブデマリは有柄花序である。

明るく輝く黄緑のブナ林を通り抜ける風に純白のオオカメノキの花が揺れる様は初夏のブナ林の清涼感を一層強める。特に、花冠の装飾花の白が際立つが、装飾花の咲き始めは緑黄色を帯びていて瑞々しさを漂わせている。入梅前に谷地平を散策しようと、姥ヶ原を抜けオオシラビソ林に立ち入った。鬱蒼として薄暗い針葉樹林帯に開かれた登山道の先に日差しが筋状に差し込み、淡い緑色を帯びた花を照らし出していた。早速その花に近づき花の主を確かめようとしたが、いままで遭遇した植物で似たものが思いつかずしばらくたずんでみると、特徴のある葉に気づきそれがオオカメノキの咲き初めであることを知った。

第123回自然観察会案内：高山・夏の山岳植物観察会

日時：2012年7月15日（日）7：00～16：30

集合場所：四季の里交差点入り口駐車場 集合時間：7：00 参加定員：20名

内容：鳥子平から高山山頂を経て幕川にいたるコースを散策し、ブナ林や高層湿原、亜高山針葉樹林に植生する山岳植物の様子を観察します。

準備するもの：昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、帽子、手袋（軍手）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、ルーペ（あると便利です！！）

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：7月14日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。

西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア（詳細は佐藤守まで）

1. 実施日：6月16日（土）6時30分～17時30分（雨天時6月17日に順延）

2. 内容：天狗岩～西吾妻避難小屋湿地帯と西大巔水場周辺の誘導ロープの設置作業を行います。本年はデコ平ゴンドラの運行開始が7月以降ですので天元台から2班に分かれて実施します。

3. 集合場所・時間：福島県果樹研究所 6時30分

日程：6：30（果樹研究所）→8：00（天元台スキー場ゴンドラ乗場）→9：00（リフト終点）→11：00（西吾妻避難小屋）→（作業・昼食）14：00→15：50（リフト終点）→16：20（天元台スキー場ゴンドラ乗場）→17：50（果樹研究所）

4. 準備品：登山靴（長靴）、雨具、手袋（作業用）、昼食、水筒、筆記用具、嗜好品、その他（あればハンマー・ペンチ）

協力いただける方は、6月15日（金）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします。

「ネイチャーフロント米沢」が主催する弥兵衛平湿原植生回復ボランティア作業のお知らせ（詳細は佐藤守まで）

◆ 第1回採種作業（種採り）8月19日（日） 荒天時の予備日 8/26

◆ 第2回採種作業（種採り）9月2日（日） 荒天時の予備日 9/9

◆ 播種（種まき）・緑化ネット被覆・防霜用むしろかけ作業 9月30日（日） 荒天時の予備日 10/7

申込締切：8月1日

いずれも7時20分ロープウェイ湯元駅集合 参加費 1000円（保険・ロープウェイ・リフト代込み）

「ネイチャーフロント米沢」が主催する自然観察会（詳細は佐藤守まで）

◆ 西吾妻山方面（大凹、天狗岩）7月8日（日） 参加費 2000円 締切日 6月28日

◆ 弥兵衛平湿原方面 8月5日（日） 参加費 2000円 締切日 7月31日

いずれも7時40分ロープウェイ湯元駅集合

ネイチャーフロント事務局問合せ先：電話/FAX 0238-38-3645（須藤方）、メール kimi3645@hotmail.co.jp

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

【編集後記】5月16日に福島県、環境省、経済産業省が主催する「福島県における地熱資源開発に関する意見交換会」があった。経済産業省の主導で出光等9社が合同し、磐梯・吾妻・安達太良山域で3万キロワットレベルの地熱発電所を最大で9か所開設する計画があるという。この計画に対し磐梯・吾妻・安達太良地熱開発対策委員会委員長、福島県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長、福島県温泉協会会長、県自然保護協会会長からいずれも厳しい意見が述べられたのに対し、企業側からは「震災復興のお役にたつことが目的」との回答があった。この発言は進行中の原発事故に苦しむ被災者の傷にヒ素混じりの硫酸液を浴びせる行為に等しいという認識がまるでないことを露呈してしまった。今回の意見交換会は地熱開発に向けた行政手続きとは全く無関係との県からの説明があったが、後日、関係自治体で対策協議会を設けるとの新聞報道があった。県土破壊の代償として補助金や交付金を手に入れる手法はこれまでの自治体行政の常。災害発生時には誘致責任者は既に不在というのが自然開発事業のやりきれないところである。弊害の犠牲者になるのはいつも「物言わぬ」県民である。これからも注意深く監視する必要がある。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第81号 2012年6月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤守 Phone 024-593-0188（夜間7時～9時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・鈴木